

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

# 大阪あそび歩

OSAKA ASOBO

## 難波へ! 伎人たちは大海原を越えて 〜喜連環濠都市のルーツ・伎人郷(くれひとのさと)を歩く〜

かつて喜連はその地名の由来ともいわれる渡来人の里「伎人郷」と呼ばれていた。喜連環濠の興りは古代にまで遡ると云われ、六ヶ所あった出口には地蔵が設けられた。お地蔵さんは数百年の時を経た現在も尚、地域の人々によって連綿と護り続けられている。

### ⑨お姫さんの井戸

環濠を挟んで稲荷山の西側真向かいの駐車場内に井戸を囲むようにある一坪ほどの塚。応神天皇の后で杭全長日子王の娘・息長真若中女(おきながまわかなかひめ)の御陵「広住塚」とされる。明治37年(1904)頃、環濠浚渫時に川底から出土したとされるその名を刻んだ石標は楯原神社に移設されている(かつての墓域を示す石標かとの説あり)。喜連に今も残る唯一の塚である。

### 息長川について

『万葉集』の巻20-4458番に「には鳥の息長川は絶えぬとも君に語らむ言(コト) 尽きめやも」という一首がありますが、これは「於河内国伎人郷鳥国人家宴歌」とある通り、喜連の豪族、馬史國人(ウマノフヒツクニヒト)が詠んだ一首です。息長川は飛鳥時代洪水を繰り返した瓜破から北流する谷川を伎人堤(くれひとづつみ)で堰き止め、中高野街道を切り通して西喜連水郷地帯に注ぎ、現在の今川を経て難波宮に結んだ人工河川と考えられます。戦後まで喜連南辺に大きな堤と川が残っていました。地下鉄はこの川を掘って敷かれました。流路沿いにタカンテ(高堤)や、かつつかい(河内摂津境)、唐下(伎人)など史実に合う古地名が、また池の瀬、ツブレ池、浪打など「息長川は絶えぬとも」と詠まれた水郷風景を伝える古地名が続いています。『万葉集』の一連の6首はすべて、難波宮からの水行と喜連の風景を詠んだと説明できます。

長居公園通 地下鉄 谷町線 喜連瓜破駅 **スタート**

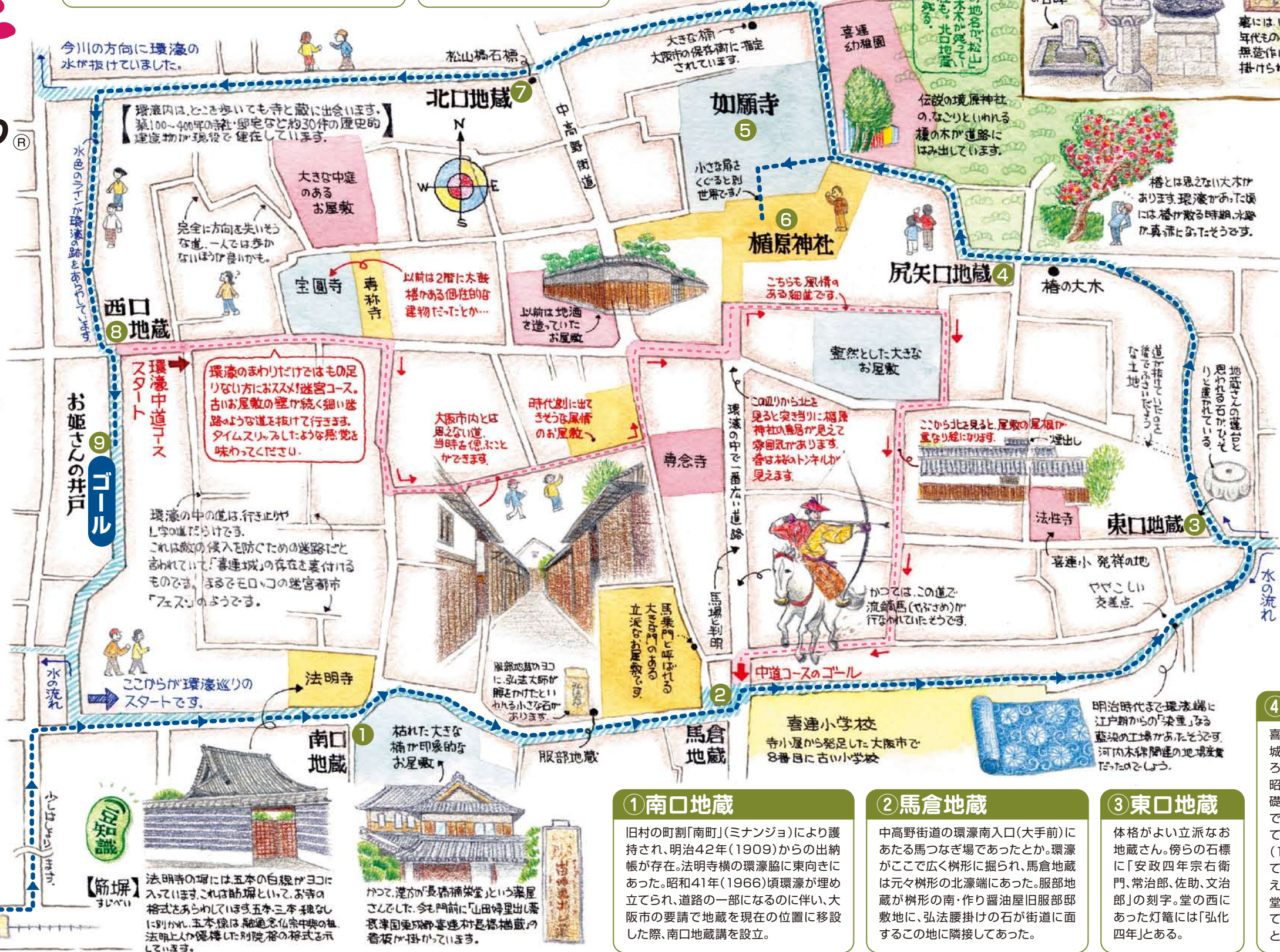
【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。  
【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局 電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内) 「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。 <http://www.osaka-asobo.jp> または「大阪あそ歩」でネット検索を。

### ⑧西口地蔵

地蔵盆の時に出す石の香炉には「明治15年西金若中」の銘。西町と金元町で祀っていたと思われる。本尊左手に首地蔵が祀られている(出自不明)。地蔵さんの前と西面には濠の石垣が埋まっている。50年前頃は環濠の西側に不動さんが祀られ、その前の広場では櫓を組み、盆踊りが行なわれてきた。

### ⑦北口地蔵

中高野街道の玄関口として、直ぐ傍には「松山橋」跡も残る。広い棧敷は熊野詣の旅の祈願・休憩風景が偲ばれる。近在の人々によって地蔵堂が普請・維持されている。



### ①南口地蔵

旧村の町割「南町」(ミナンジョ)により護持され、明治42年(1909)からの出納帳が存在。法明寺横の環濠脇に東向きにあった。昭和41年(1966)頃環濠が埋め立てられ、道路の一部になるのに伴い、大阪市の要請で地蔵を現在の位置に移設した際、南口地蔵講を設立。

### ②馬倉地蔵

中高野街道の環濠南入口(大手前)にあたる馬つなぎ場であったとか。環濠がここで広く樹形に掘られ、馬倉地蔵は元々樹形の北濠端にあった。服部地蔵が樹形の南・作り醤油屋旧服部邸敷地に、弘法腰掛けの石が街道に面するこの地に隣接してあった。

### ③東口地蔵

体格がよい立派なお地蔵さん。傍らの石標に「安政四年宗右衛門、常治郎、佐助、文治郎」の刻字。堂の西にあった灯籠には「弘化四年」とある。

### ④尻矢口地蔵

喜連村六出入口のひとつ。「尻矢口」は喜連城本丸から見た尻(後方)の備えの矢口であろう。地蔵堂の土台は環濠が埋め立てられる昭和35年(1960)までは立派な石垣で基礎が築かれていた。昭和15年(1940)頃までは荷車や馬車が通れる幅の石橋が架かっていた。地蔵盆の際にお供えする寛政2年(1790)の「如来御膳」が谷川家に伝えられており、今日まで地蔵盆には谷川家により供え続けられている。平成4年(1992)の地蔵堂の改築時にお堂の下から「餅つき臼」が出てきたので元の通りお堂の下に埋め戻したとのこと。

今川の方に環濠の水が振っていました。水色のラインが環濠の跡をあらわしています。

環濠内は、どこまで歩いても寺と蔵に出会います。築100~400年の神社・御宅など約30件の歴史的建造物が現役で健在しています。

環濠のまわりだけではもの足りない方におススメの迷路コース。古いお屋敷の壁が続く細い迷路のような道を抜けて行きます。タイムスリップしたような異次元を味わってください。

環濠の中の道は、行き止まりの道だらけです。これは敵の侵入を防ぐための迷路だと知られていて、「喜連城」の存在を裏付けるものです。まるでモロコシの迷宮都市「フェス」のようです。

ここからが環濠巡りのスタートです。

如願寺の灌漑長閑紀功の碑別の場所から移されてきたようです。ハンコのような文字。

大きな桶 大阪市の保存倉庫に指定されています。

以前は2階に木敷楼がある個性的な建物だったとか...

大阪市内とは思えない道。当時の徳兵衛が歩けるといわれています。

馬乗門と呼ばれる立派なお屋敷です。

楯原神社の前の環濠から出土した息長真若中女の石碑。

こちらにも風情のあるお屋敷です。

この道から北と見ると突き当りに楯原神社の鳥居が見えて空気が爽やかです。香は木のおしんが匂います。

かつては、この道で流鏝馬(りゃげま)が行なわれていたと云います。

喜連小学校 寺小屋から発足した大阪市で8番目に古い小学校

楯原神社 興味深いものが多い。まさに環濠のパワースポット。大木が生い茂り、うっとりしています。

楯とは思えない大木があり、環濠があった頃には楯が散る時雨、水路が真赤になつてさうです。

楯の大木

喜連小 発祥の地

明治時代まで環濠端に江戸期からの「染屋」なる藍染の工場があったと云う。河内木綿関連の地場産業だったと云う。

楯原神社 興宮 お姫さんの井戸の前の環濠から出土した息長真若中女の石碑。

楯原神社 絵馬堂 楯にはいかにも耳代ものの絵が無造作に数点掛けられている。

如願寺 寺伝では聖徳太子により「喜連寺」として創建され、後に弘法大師により「如願寺」として再建された。本尊聖観音は平安期作の府指定文化財、弁財天は奈良時代の乾漆像、平安期の地蔵木仏などあり。南北朝〜戦国期にかけては「喜連城」として使用されていたとか。また境内には「灌漑長閑紀功の碑」がひっそりと建っている。新大和川の付け替えによって受難の時を迎えた喜連村は領外に「五十間樋」と呼ばれる新樋を設置し、新大和川からの取水に成功。江戸中期の農村としての発展を導く。碑文中には新大和川の濁水時に備えた狭山地からの用水を確保する為の「伏樋」と称する川底に埋められた特殊な樋のことを伝えている。

尻矢口地蔵 水の流れ